

地域協働教育の意義と効果の検証

【概要】

地域学部では、地域学を基盤とした地域実践教育に取り組んできた。フォーマルなカリキュラムに加え、インフォーマルなカリキュラムにおいても地域と連携・協働した多様な活動が展開されており、地域からの大学や学生への期待も大きい。これらの地域での実践的な活動への参加とそこからの学びは、専門的な知識や技能を実践的に習得するだけでなく、地域理解を深め、社会的な活動能力やスキルを向上させるなど学生のキャリア形成としての意義をもつ。本調査研究は、本プロジェクトにおける地域と協働した教育研究の効果を検証するものであり、新たな地域協働教育プログラム開発に資することを目的とする。

具体的には、次の3つの調査研究を実施する。第1に、地域実践教育の効果を縦断的な視点から追究する。具体的には、入学時調査および卒業時調査から地域学を柱とする学部教育の意義を、同一学年の4年間の追跡を通して検証する。第2に、地域実践的な活動が専門性やキャリア形成に及ぼす影響について明らかにする。第3に、地域連携先を対象とした調査を通して、地域をフィールドとした大学・学生の研究や実践活動の意義についても検証する。

【キーワード】 地域実践，教育，キャリア形成，カリキュラム，地域協働教育プログラム

【参加メンバー】 地域教育学科 准教授 福田 恵子
(総括・教育効果の検証・地域協働教育プログラム開発)
地域教育学科 教授 山根 俊喜(地域協働教育プログラム開発)
地域政策学科 准教授 竹川 俊夫(調査分析および地域協働教育プログラム開発)
地域政策学科 准教授 筒井 一伸(調査分析および地域協働教育プログラム開発)
大学支援機構 教員養成センター 准教授 大谷 直史
(調査分析および地域協働教育プログラム開発)
大学支援機構 キャリアセンター 准教授 長尾 博暢
(地域協働教育プログラム開発)

【計画】

- 平成 25 年度 ①フォーマルおよびインフォーマルカリキュラムにおける具体的な地域実践活動に参加した学生を対象として、専門性の向上やキャリア意識の変化に関して、質的・量的側面から事例研究を行う。
②各プロジェクトにおける地域連携先を対象とし、地域実践教育に関する地域側評価を目的とした調査を実施する。
- 平成 26 年度 平成 25 年度の調査を継続する。具体的には、①地域実践活動に参加した学生の追跡調査を実施し、長期的視点から地域実践活動の意義について検証する。また、②地域側評価データを継続して収集し、学生教育の視点とその教育のもつ地域貢献的視点から地域実践教育の意義についてまとめる。
- 平成 27 年度 平成 24 年度生を対象として、地域実践教育に関する4年間の縦断的調査(平成 24 年度入学時調査、平成 27 年度卒業時調査)結果から、地域実践的な活動が専門性の習得やキャリア形成に及ぼす影響について明らかにする。また、地域学部教育の成果とカリキュラム編成上の課題についてまとめ、地域協働教育のプログラム化に資する。

【プロジェクト終了後の展開】

地域協働教育プログラムの開発により、継続的な地域再生を担う人材の育成を体系的なシステムのもとで計画的に進める。また、地域活動のプロセスへの学生の参画によって、大学の新たな地域貢献の道を拓き、多くの主体が協働的に関わる地域づくりに寄与する。

【地域連携先(自治体・団体など)の想定】

本プロジェクトの学生参加型調査研究や実践等の連携先

倉吉市企画振興部人権局, 日南町健康福祉センター, 南部町企画政策課, 朝日塾中等教育学校など